

平成23年度第0回ゼロ・ウェイスト円卓会議 議事録

文責 池崎

日 時	平成23年8月30日（火）午後6時～8時40分			
場 所	熊本学園大学水俣学現地研究センター			
参加者	所 属	氏 名	所 属	氏 名
	熊本学園大学	宮北 隆志 藤本 延啓	環境モデル都市推進委員	小里 アリサ
	エコタウン協議会	田中 利和	エコネットみなまた	山下 善寛
	リサイクル推進員	桑畑 好継	市議会議員	西田 弘志
	ごみ減量女性連絡会議	永野 三智	環境クリーンセンター	福田 一哉
	総合経済対策課	草野 徹也	環境モデル都市推進課	田畑課長、岩下室長 川本係長、坂本 池崎
計 15名				
内 容	第0回目の円卓会議を開催し、円卓会議の再編性やこれまでの活動報告や課題、今後の推進体制等について話し合いを行った。主な意見等は以下のとおり。 山下：今回の会議の位置づけとしては、これまでの活動の総括という形で考えてよいのか。 池崎：環境モデル都市推進委員会と円卓会議の拡大会議の際に、合同会議の開催の前に、各円卓会議でこれまでの総括として第0回の円卓会議を開催してもらいたいという話があった。今回は、これまでの総括と、今後推進していくための体制づくりについてご意見をいただきたい。 宮北：会の代表として桑畑さんに挨拶をしてもらい、進行を市民、具体的な説明を事務局からお願いしてはどうか？ ⇒ 桑畑さんに代表を、小里さんに進行をお願い（今回のみ？） 1. 円卓会議の再編成について 田中：環境モデル都市推進委員会の副委員長、環境学習円卓会議の座長、ゼロ・ウェイスト円卓会議に入っていた。本来であれば、作業部会のようなものでもっと具体的な活動や話を詰めていかないといけないのに、今回、有識者の先生や取組のスケジュール等が決まり、動きにくくなってしまうのではないかと不安。座長としても、全体を取りまとめていくのは難しいのではないかと感じている。 草野：環境まちづくり研究会の座長を務めていた大西先生も言われていたが、あくまでもやっていくのは市民である。そこに有識者の先生たちにアドバイザーという形でサポートに入ってもらい。会をリードしていくのは、市の役割だと考える。環境まちづくり研究会の専門委員だった方に、今回の合同会議に専門委員として入っていただき、それぞれの専門分野の観点からご意見をいただく。 また、基本的には各円卓会議に3名ずつくらい、有識者委員として入ってもらい。課長会議でも円卓会議を中心とした市民協働のまちづくりを進めていくこと、来年度の事業化に向けて全庁的な取組としていくことを市長が述べている。			

田中：まちづくり研究会の先生たちのように遠くから来てもらうのではなく、市と包括協定を結んでいるような熊大、崇城大の先生たちに、宮北先生や藤本先生のように円卓会議に入ってもらってやっていくのがスムーズなのではないか。

西田：ゼロ・ウェイスト以外の円卓会議は、活動に温度差があった。そこに専門委員の先生に入ってもらうのは、市民の理解や参加が得られるだろうか。

草野：これまでは5つの円卓会議の事務局を環境モデル都市推進係でもって、職員3名くらいで担当しており、なかなか事業化に結び付けられずに申し訳なかった。今回から環境課だけではなく、全庁的な取組としていくために各円卓会議の関係課に事務局をもってもらい、事業化につなげられるよう取り組んでいく。

宮北：担当課の職員のコーディネートによるところが大きい。ゼロ・ウェイスト円卓会議のやり方をモデルケースとして他の円卓会議にも示していければよい。

福田：決定機関が見えない。

池崎：円卓会議の取組や決定事項については、各円卓会議に参加している環境モデル都市推進委員会を通じて合同会議にあげてもらう。環境モデル都市推進委員会のなかで提案された事項については、庁内組織である環境モデル都市推進本部会で検討し、庁議にあげる、という形で要綱等を整備している。

小里：全体スケジュールと推進体制について、よく分からない部分がある。

草野：3月の推進委員会でもお話したとおり、推進委員会の開催回数を年に3回程度に減らして、その分円卓会議の活動を中心に取り組んでいく。その中にまちづくり研究会の専門委員の先生たちにもアドバイザーとして入ってもらい、これまでと同様に市民といっしょにやっていくことと、専門委員に入ってもらって新たにやっていくことの両方に取り組んでいく。環境モデル都市推進委員会と合同会議、まちづくり研究会の専門委員による合同会議を開催し、これまでの流れや全体認識、情報共有を図りたい。

2. ゼロ・ウェイスト円卓会議の活動報告及び課題等について【資料参照】

福田：一番の課題は金。これ以上市民一人当たりのごみ処理経費を増やせない。

草野：水俣市は環境モデル都市や環境首都として認定され、環境への取組に力を入れているが、市民一人当たりのごみ処理経費は県下でも有数の高さである。そのため、これ以上ごみ処理経費についての負担はさせられないということで、ごみを減らしていこうというゼロ・ウェイスト宣言をするに至った。もう一度原点に帰って、これ以上お金をかけずにごみを減らしていくにはどうしたらいいか、ということを考えていく必要がある。

田中：組成調査の結果、燃えるごみの中に有価物が多かった。有価物は民間業者が回収して資源化していければ資源になり、経済の活性化や雇用の創出にもつながっていく。組成調査の結果からもっと踏み込んで、具体的な取組内容について検討していけないといけない。

西田：ゼロ・ウェイスト円卓会議で組成調査やステーション調査など、いろんなことをやってきたが、それが市への提言にまでは至っておらず、事業化に結びついていない。そこを市民と一緒にやっていかなければならない。

福田：燃えるごみに含まれる資源をきちんと分別すればよい。毎年9000万円くらい燃やしている。

山下：資源ごみステーション調査の座談会で、燃えるごみの有料化についての意見も出たしかし、市民にその意識がない。ごみの分別や減量へのメリットがない。

福田：一般廃棄物処理計画の作成を委託しているコンサルタントが調査したところ、水俣と同規模くらいの市町村の中では、水俣市のごみ分別の偏差値は85もあった！それだけ努力しているということは、これ以上分別させるのは難しいのではないかと。ごみ出しについてのデメリット（有料化）をつくれば、ごみが減るというのも一つの考え方かと思う。既存のインフラ整備自体にもお金がかかる。これ以上施設整備にはお金をかけられない。

草野：資源ごみステーション調査で、現時点での課題も見えてきた。各地区で燃えるごみのごみ出しの際に重量を図り、ごみを減らしたところに還元金を出すというのも一つのアイデア。

山下：剪定枝や紙おむつの分別収集についての話はどうなっているのか。

福田：それも含めて、コンサルタント会社に施設の創設や収集運搬などのコスト計算をさせている。11月くらいには報告できるかと思う。

藤本：毎回どのようなことを話していくかというテーマについて議論することが大事。環境モデル都市推進委員会やゼロ・ウェイスト円卓会議も、取組報告のような形になってしまっていた。円卓会議から提案されたことが、政策として反映され、実現していくようなモデルケースを作れるとよい。

草野：推進委員会も回数が多くなり、負担が大きくなって円卓会議のほうの活動ができていなかった部分がある。また、情報共有の要素が強かったという反省に基づいて、実働組織である円卓会議に活動の中心を移して、推進委員会を開催しながら全体での情報共有を図っていくというやり方にしていく。

宮北：円卓会議の課題として、情報共有（情報の基盤整備）と人づくり（人材育成）がある。ホームページの整備や、市報での報告以外にも、情報を共有する仕組みをつくっていくことが大切。長崎市では、職員力の向上に力を入れている。人材育成の観点から、若手職員にも円卓会議に入ってもらい、長期的な視点で取り組んでもらいたい。

田中：役所の中でも現状の共有化を行い、努力していくべき。

草野：役所の中でも事業化に結び付けていくために人材育成は必要。

小里：若い人にいっしょにやる経験をしてもらいたい。

藤本：円卓会議の場で様々な意見がでて、それが具体化されていないのは、職員のコーディネート不足によるものではないか。水俣ではそれがはっきり現れている。

3. 今後の取組及び推進体制について

○構成メンバーについて

草野：8月10日の市報で円卓会議のメンバー公募を行い、28名の市民から応募があった。希望者に各円卓会議への参加希望をとっているため、現在、調整中である。ゼロ・ウェイスト円卓会議へは3名の希望があっている。

宮北：茶のみ場推進の観点から、農林水産振興課や商工観光振興課にも入ってもらったらどうか。また、以前水光社の方に入ってもらっていたが、その後どうなっているのか。

草野：会議になかなか出席できないとのことで、辞退の申し出があっている。

小里：水光社家庭会に入ってもらったらどうか？

宮北：教育機関や若い人にも関わってもらおうという観点で、工業高校やグリーンフラッグの顧問の先生または生徒にも入ってもらったらどうか。

福田：日環センター（廃棄物処理基本計画の策定を委託しているコンサルタント）にも入ってもらえる。

⇒事務局で各団体への参加を依頼

○有識者委員について

池崎：固定した人を3人×5回来てもらうのもよいし、テーマに応じてスポット的に関係者に来てもらうこともできる。

田中：平成22年度に企画していた環境モデル都市フェスタでも、ゼロ・ウェイスト宣言自治体に集まってもらったらどうかという案もあったが、予算がなく、機会がもてないでいる。フェスタの際に来てもらうのもよい。

⇒テーマに応じて、ゼロ・ウェイスト宣言自治体職員や、他自治体の現場担当職員等に参加してもらおう。フェスタへの参加についても検討。

○取組内容について

福田：一般廃棄物処理基本計画（１５～２０年計画）について、検討してもらいたい。
現在、コンサルタントに現状分析を依頼しており、１１月に素案が提案される予定。それに併せて会議を開催してもらいたい。

田中：作業部会という形で議論を進めていくのがよいのではないか。

山下：環境まちづくり研究会報告書をどのように活用していくのかが見えない。総合計画との関係や予算についてはどうなっているのか。まちづくり研究会報告書の実現にのみ予算がついているのではないか。

草野：総合計画には、大きな取組が書かれており、まちづくり研究会報告書の提案事項は、総合計画で掲げる将来像の実現手段の参考書として活用してもらいたい。報告書で提案されているものからいくつか選び、それを円卓会議のなかで取り組んでいく。

円卓会議の取組については、庁内でもこれまで意識の差があった。総合計画の中に「市民協働によるまちづくり」が謳ってある以上、自分たちの仕事として取り組んでいかなければならないと考えている。

予算については、専門委員の先生方への旅費等が中心で、事業化に向けた予算の作成はこれから。今年度は事業化にこだわって、一つでも二つでも予算化に結び付けられるようにした。

小里：報告書のどの部分が、市の計画のどの部分に該当するのか、関係性が見えにくい。円卓会議等の活動に新たに参加してもらうような場合に、わかりやすい絵があると望ましい。

小里：次回は今後円卓会議の中で話し合っていくテーマについて議論をしたい。

４．今後の日程等について

- ・ ９月４日（日）「環境モデル都市推進委員会・環境モデル都市推進本部会・環境まちづくり専門委員」合同会議の開催
（１４：００～１６：００ @公民館２階ホール）
- ・ 次回の日程について、コンサルも含めて調整